

測線名	松田慶武原川マングローブ林 地点1					
該当箇所	マングローブ域 上流部					
植生・底質マトリックス	植生高	低	← マングローブ林 →			高
	植生区分	裸地 (水位変動域)	ソナレムグラ群落	マングローブ林		
	底質		含む メヒルギ メヒルギ 低木林	メヒルギ 垂高木林	オヒルギ 垂高木林 ヤエ	オヒルギ 垂高木林 ヤエ
	①泥					
	②砂礫含む泥					
	③砂泥					
	④砂					
⑤小礫含む砂						
⑥砂礫						

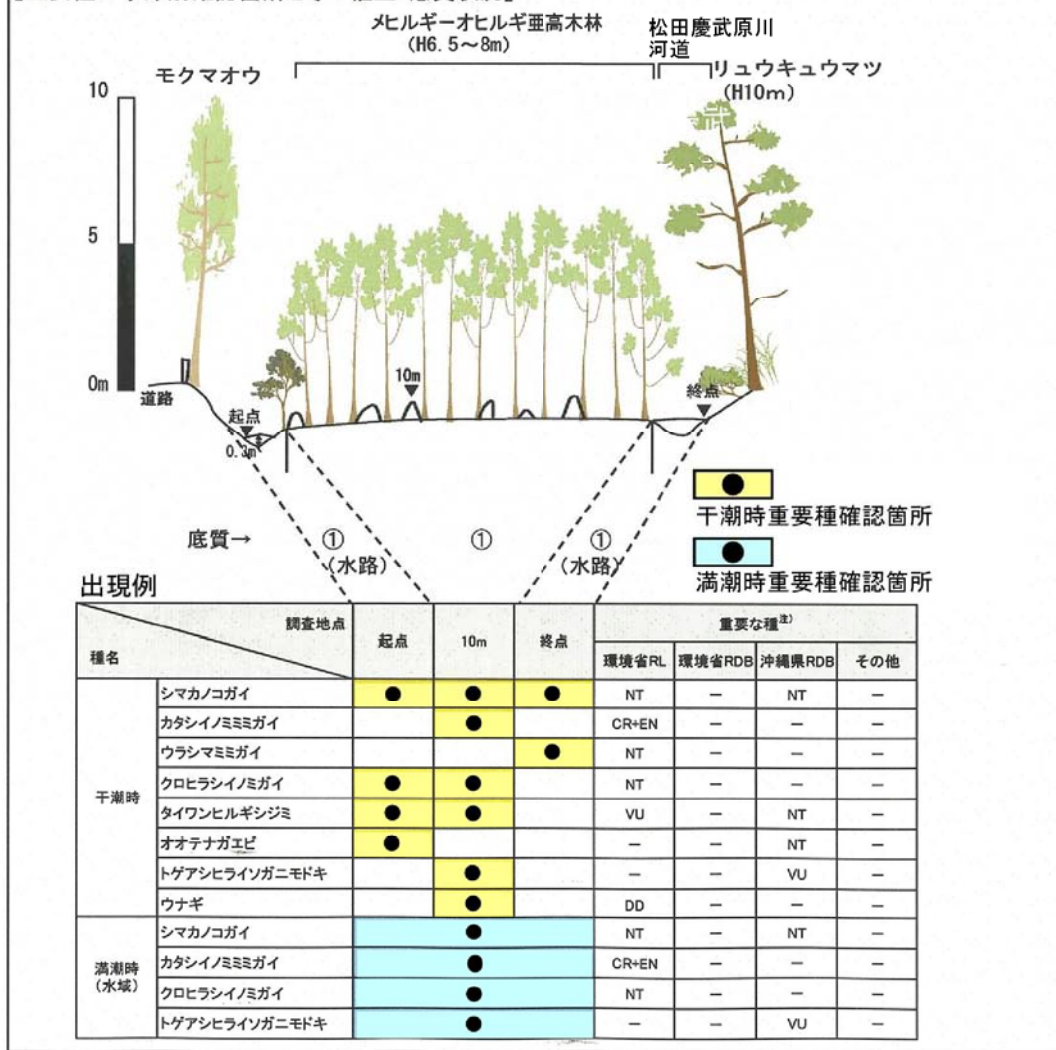
凡例

- 当該河川では上～下流のいずれの測線でも出現しなかった植生タイプ
- 当該測線で確認した植生・底質タイプ
- 調査対象5河川全てにおいて、確認しなかった植生・底質区分

・マトリックスの縦横軸の区分は、調査対象5河川全てのマングローブ林で確認した植生タイプ及び底質タイプを表示したものである。

環境情報図

【重要種の季節別確認箇所とその植生・底質状況】

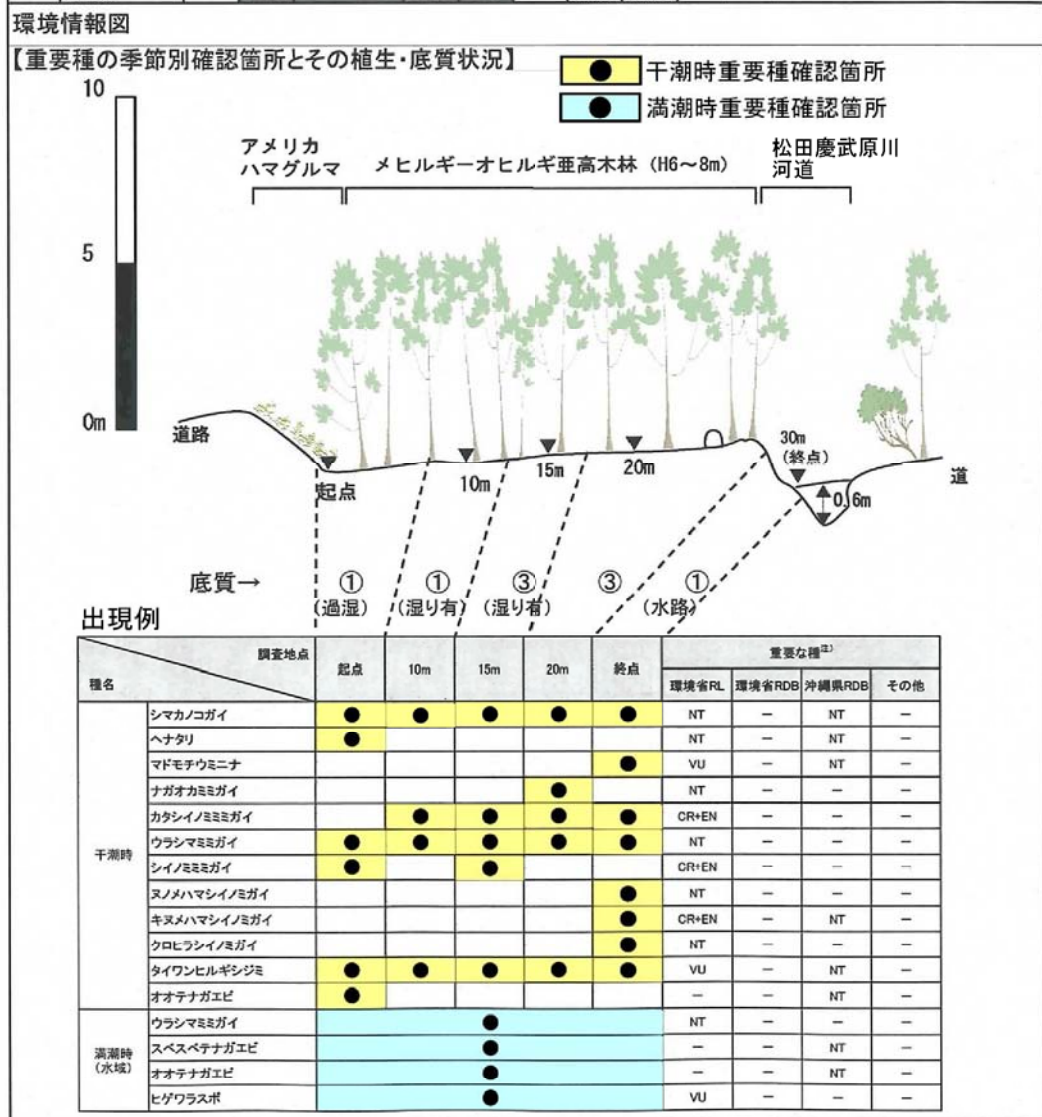


注) 環境省 RL: 環境省版レッドリスト[8] 其他無脊椎動物(クモ形類、甲殻類等) (環境省 2006)
 環境省版レッドリスト[5] 汽水・淡水魚類・[7] 貝類 (環境省 2007)
 沖縄県 RDB: 改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物(動物編)-レッドデータおきなわ (沖縄県 2005)
 (略号) は以下のとおり。
 CR+EN: 絶滅危惧 I 類 (CR: 絶滅危惧 IA 類、EN: 絶滅危惧 IB 類)、VU: 絶滅危惧 II 類
 NT: 準絶滅危惧、DD: 情報不足、LP: 絶滅のおそれのある地域個体

資料: 「シュラブ(H18)環境現況調査(その4)報告書」平成20年10月、沖縄防衛局

図-6.19.2.1.17 (1) マングローブ林の地点別環境情報図(松田慶武原川: 地点1)

測線名	松田慶武原川 マングローブ林 地点2							
該当箇所	マングローブ域 中流部							
植生・底質マトリックス	植生高	← 低 → 高 →					凡例 ・マトリックスの縦横軸の区分は、調査対象5河川全てのマングローブ林で確認した植生タイプ及び底質タイプを表示したものである。 ① 当該河川では上～下流のいずれの測線でも出現しなかった植生タイプ ② 当該測線で確認した植生・底質タイプ ③ 調査対象5河川全てにおいて、確認しなかった植生・底質区分	
	植生区分	裸地 (水位変動域)	ソナレムグラ群落	マングローブ林				オヒルギ亜高木林 (発達林分)
	底質		含(メヒルギヤギマヒルギ低木林)	メヒルギ亜高木林	オヒルギヤギマヒルギ高木林	オヒルギ亜高木林		オヒルギ亜高木林
	①泥							
	②砂礫含む泥							
	③砂泥							
	④砂							
⑤小礫含む砂								
⑥砂礫								



注) 環境省 RL :

環境省版レッドリスト[8]その他無脊椎動物(クモ形類、甲殻類等)(環境省 2006)

環境省版レッドリスト[5]汽水・淡水魚類・[7]貝類(環境省 2007)

沖縄県 RDB :

改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物(動物編)-レッドデータおきなわ(沖縄県 2005)

(略号)は以下のとおり。

CR+EN : 絶滅危惧 I 類(CR : 絶滅危惧 IA 類、EN : 絶滅危惧 IB 類)、VU : 絶滅危惧 II 類

NT : 準絶滅危惧、DD : 情報不足、LP : 絶滅のおそれのある地域個体

資料 : 「シュワブ(H18)環境現況調査(その4)報告書」平成20年10月、沖縄防衛局

図-6.19.2.1.17 (2) マングローブ林の地点別環境情報図(松田慶武原川 : 地点2)

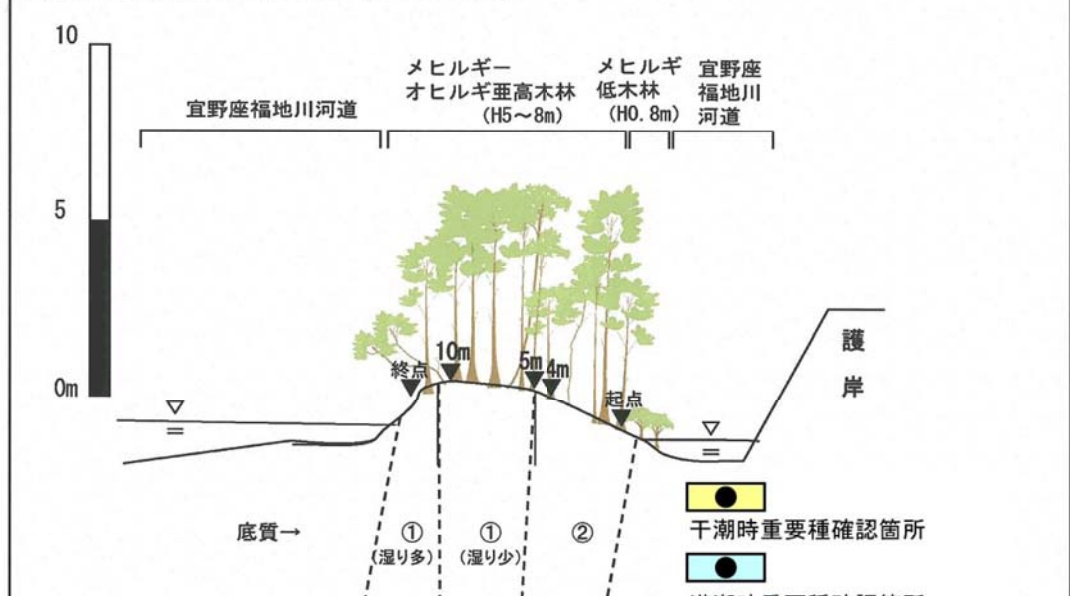
測線名	宜野座福地川マングローブ林 地点1						
該当箇所	マングローブ域 上流部						
植生・底質マトリックス	植生高	低	←————→				高
	植生区分	裸地(水位変動域)	ソナレムグラ群落	マングローブ林			オヒルギ亜高木林(発達林分)
			含(ヤエヤマヒルギ含む)	メヒルギ低木林	メヒルギ亜高木林	オヒルギ低木林	オヒルギ亜高木林
	底質						
	①泥						
	②砂礫含む泥						
	③砂泥						
	④砂						
⑤小礫含む砂							
⑥砂礫							

凡例

- マトリックスの縦横軸の区分は、調査対象5河川全てのマングローブ林で確認した植生タイプ及び底質タイプを表示したものである。
- 当該河川では上～下流のいずれの測線でも出現しなかった植生タイプ
- 当該測線で確認した植生・底質タイプ
- 調査対象5河川全てにおいて、確認しなかった植生・底質区分

環境情報図

【重要種の季節別確認箇所とその植生・底質状況】



出現例

種名	調査地点	終点	5m	起点	重要な種 ^(注)			
					環境省RL	環境省RDB	沖縄県RDB	その他
干潮時	ヒロクチカノガイ	●			VU	-	-	-
	タイワンヒルギシジミ	●	●	●	VU	-	NT	-
	テゴイワガニ			●	-	-	NT	-
	ミゾテアシハラガニ			●	-	-	NT	-
	ヒラモズガニ	●			-	DD	NT	-
満潮時(水域)	イロタマキビ		●		NT	-	NT	-
	ハザクラガイ		●		-	-	NT	-
	テゴイワガニ		●		-	-	NT	-
	クラフグ		●		LP	-	LP	-

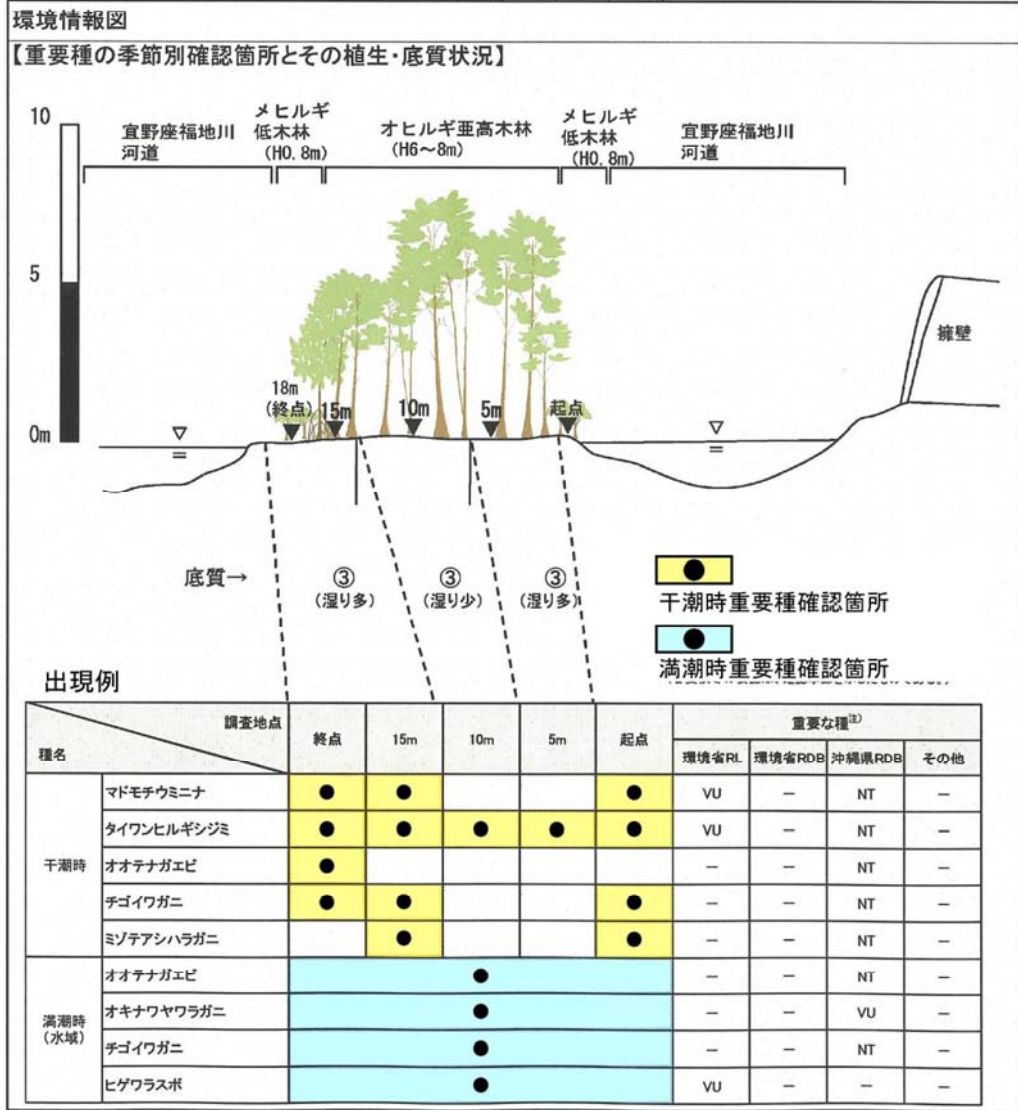
注) 環境省 RL :
 環境省版レッドリスト[8] 其他無脊椎動物(クモ形類、甲殻類等) (環境省 2006)
 環境省版レッドリスト[5] 汽水・淡水魚類・[7] 貝類 (環境省 2007)
 沖縄県 RDB :
 改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物(動物編)-レッドデータおきなわ- (沖縄県 2005)
 (略号)は以下のとおり。
 CR+EN : 絶滅危惧 I 類(CR : 絶滅危惧 IA 類、EN : 絶滅危惧 IB 類)、VU : 絶滅危惧 II 類
 NT : 準絶滅危惧、DD : 情報不足、LP : 絶滅のおそれのある地域個体

資料 : 「シュラブ(H18)環境現況調査(その4)報告書」平成20年10月、沖縄防衛局

図-6.19.2.1.18 (1) マングローブ林の地点別環境情報図(宜野座福地川:地点1)

測線名	宜野座福地川マングローブ林 地点2							
該当箇所	マングローブ域 中流部							
植生・底質マトリックス	植生高	低	← マングローブ林 →					高
	植生区分	裸地 (水位変動域)	ソナレムグラ群落	マングローブ林			オヒルギ亜高木林	オヒルギ亜高木林
	底質		含(メヒルギ)マヒルギ低木林	メヒルギ亜高木林	マヒルギ亜高木林	オヒルギ低木林	オヒルギ低木林	オヒルギ低木林
	①泥							
	②砂礫含む泥							
	③砂泥							
	④砂							
	⑤小礫含む砂							
⑥砂礫								

凡例
 ・マトリックスの縦横軸の区分は、調査対象5河川全てのマングローブ林で確認した植生タイプ及び底質タイプを表示したものである。
 ① 当該河川では上～下流のいずれの測線でも出現しなかった植生タイプ
 ② 当該測線で確認した植生・底質タイプ
 ③ 調査対象5河川全てにおいて、確認しなかった植生・底質区分



注) 環境省 RL :

環境省版レッドリスト[8]その他無脊椎動物(クモ形類、甲殻類等) (環境省 2006)

環境省版レッドリスト[5]汽水・淡水魚類・[7]貝類 (環境省 2007)

沖縄県 RDB :

改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物(動物編)-レッドデータおきなわ(沖縄県 2005)

(略号)は以下のとおり。

CR+EN : 絶滅危惧 I 類 (CR : 絶滅危惧 IA 類、EN : 絶滅危惧 IB 類)、VU : 絶滅危惧 II 類

NT : 準絶滅危惧、DD : 情報不足、LP : 絶滅のおそれのある地域個体

資料 : 「シュラブ(H18)環境現況調査(その4)報告書」平成20年10月、沖縄防衛局

図-6.19.2.1.18 (2) マングローブ林の地点別環境情報図(宜野座福地川 : 地点2)

測線名	宜野座福地川マングローブ林 地点3					
該当箇所	マングローブ域 下流部					
植生・底質マトリックス	植生高	低	高			凡例
	植生区分	裸地 (水位変動域)	ソナレシバ群落	マングローブ林		
	底質		含(ヤエヒルギマヒルギ低木林)	メヒルギ亜高木林	オヒルギヤエヤ高木林	オヒルギ亜高木林
①泥						
②砂礫含む泥						
③砂泥						
④砂						
⑤小礫含む砂						
⑥砂礫						

・マトリックスの縦横軸の区分は、調査対象5河川全てのマングローブ林で確認した植生タイプ及び底質タイプを表示したものである。

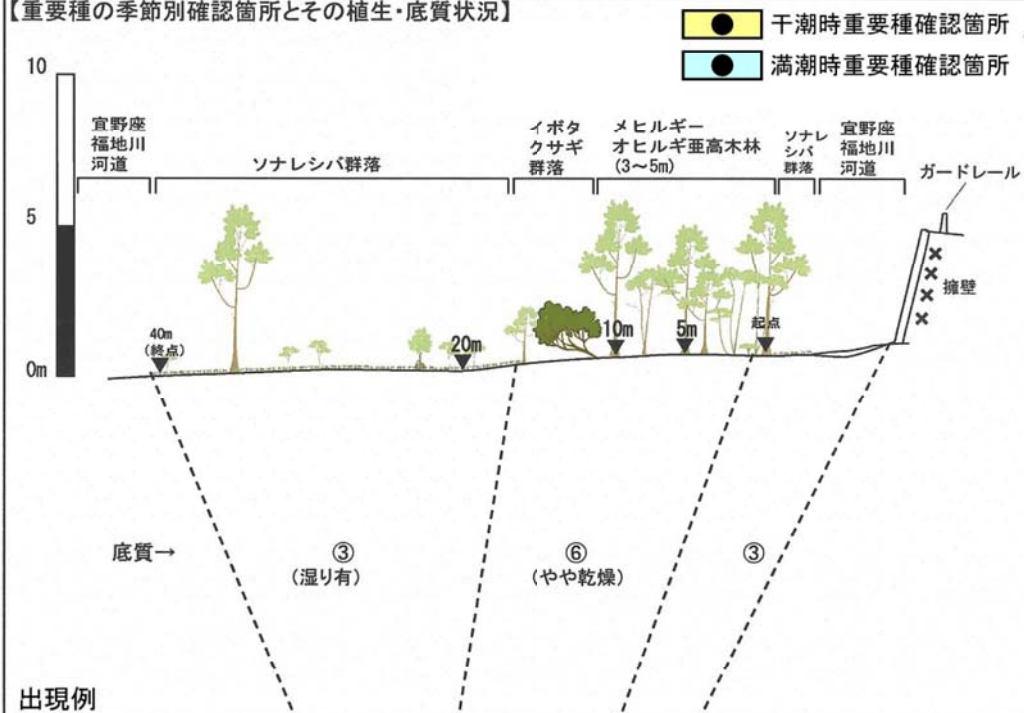
● 当該河川では上～下流のいずれの測線でも出現しなかった植生タイプ

■ 当該測線で確認した植生・底質タイプ

■ 調査対象5河川全てにおいて、確認しなかった植生・底質区分

環境情報図

【重要種の季節別確認箇所とその植生・底質状況】



種名	調査地点	終点	20m	10m	5m	起点	重要な種 ^(注)			
							環境省RL	環境省RDB	沖縄県RDB	その他
干潮時	マドモチウミニナ	●					VU	—	NT	—
	イロタマキビ				●		NT	—	NT	—
	ゴマセンベシアワモチ					●	NT	—	—	—
	オカヤドカリ				●		—	—	—	国指定天然記念物
	テゴイワガニ					●	—	—	NT	—
満潮時 (水域)	コウナガイワガニモドキ			●			—	—	NT	—
	クサフグ			●			LP	—	LP	—

注) 環境省 RL : 環境省版レッドリスト[8] 其他無脊椎動物(クモ形類、甲殻類等) (環境省 2006)
 環境省版レッドリスト[5] 汽水・淡水魚類・[7] 貝類 (環境省 2007)
 沖縄県 RDB : 改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物(動物編)-レッドデータおきなわ(沖縄県 2005)
 (略号)は以下のとおり。
 CR+EN : 絶滅危惧 I 類(CR : 絶滅危惧 IA 類、EN : 絶滅危惧 IB 類)、VU : 絶滅危惧 II 類
 NT : 準絶滅危惧、DD : 情報不足、LP : 絶滅のおそれのある地域個体

資料 : 「シュワブ(H18)環境現況調査(その4)報告書」平成20年10月、沖縄防衛局

図-6.19.2.1.18 (3) マングローブ林の地点別環境情報図(宜野座福地川：地点3)



長島 約0.02平方km
 灯台あり。釣人の渡航有り
 アジサシ営巣有(10 巣前後)



平島 約0.02平方km
観光(海水浴客)の利用有り
 アジサシ営巣有(少)



安部オール島 約0.06平方km
 アジサシ営巣無し



御向島(ウンケー島) 約0.002平方km
 アジサシ営巣有(少)



図-6. 19. 2. 2. 1. 1 アジサシ類の繁殖地である島嶼の状況

表-6. 19. 2. 2. 1. 1(1) 特定外来生物指定種の確認状況(ジャワマングース、シロアゴガエル)

種名	調査年度	調査Line																													
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
ジャワマングース	H19	●	●	●					●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
	H20	○	●			●	●	●			●	●	◎	●	◎	●	◎	●	●	●	◎	◎		●	●			◎	◎	●	
シロアゴガエル	H19	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
	H20	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	

注) 凡例は以下のとおり。
 ◎: トラップ調査及びライン調査での確認、●: ライン調査での確認
 ○: トラップ調査での確認

資料: 「シュワブ(H18)環境現況調査(その4)報告書」平成20年10月、沖縄防衛局

表-6. 19. 2. 2. 1. 1(2) 特定外来生物指定種の確認状況(カダヤシ)

種名	調査年度	確認河川						
		瀬嵩川	オート川	汀間川	松田落平川	松田布流石川	辺野古ダム(美謝川)	
カダヤシ	H19	●	●					
	H20	●	●	●	●	●	●	

資料: 「シュワブ(H18)環境現況調査(その4)報告書」平成20年10月、沖縄防衛局

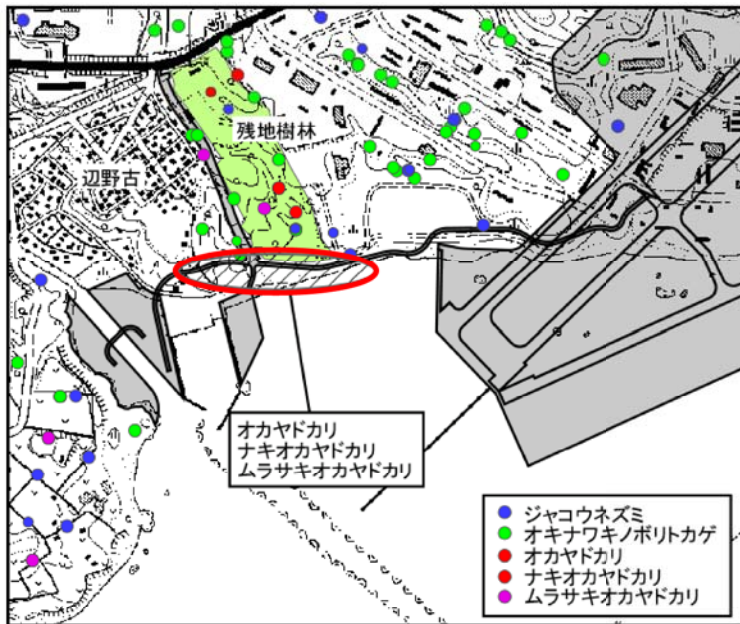


図-6. 19. 2. 2. 1. 3

工専用仮設道路周辺での動物確認状況

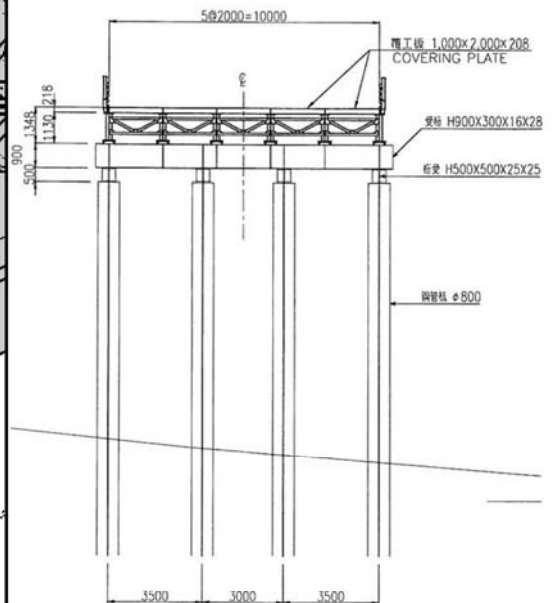


図-6. 19. 2. 2. 1. 2

工専用仮設道路の形状

表-6. 19. 2. 2. 2. 1 ツミの好適餌と考えられる鳥類^{注)}の一例

No.	目名	科名	種または亜種名	学名	全長 (cm)	生息環境	
						草地	樹林地
1	ツル	ミフウズラ	ミフウズラ	<i>Turnix suscitator</i>	14	●	
2	キツツキ	キツツキ	リュウキュウコゲラ	<i>Dendrocopos kizuki nigrescens</i>	15		●
3	スズメ	セキレイ	ツメナガセキレイ	<i>Motacilla flava</i>	17	●	
4			キセキレイ	<i>Motacilla cinerea</i>	20	●	
5			ビンズイ	<i>Anthus hodgsoni</i>	16	●	●
6			タヒバリ	<i>Anthus spinoletta</i>	16	●	
7		サンショウクイ	リュウキュウサンショウクイ	<i>Pericrocotus divaricatus tgimae</i>	20		●
8		ヒヨドリ	シロガシラ	<i>Pycnonotus sinensis</i>	19	●	●
9	モズ		モズ	<i>Lanius bucephalus</i>	20	●	
10			シマアカモズ	<i>Lanius cristatus lucionensis</i>	20		●
11	ヒタキ		ノゴマ	<i>Erithacus calliope</i>	16	●	
12			ジョウビタキ	<i>Phoenicurus auroreus</i>	15	●	
13			ウグイス	<i>Cettia diphone</i>	16	●	●
14			コヨシキリ	<i>Acrocephalus bistrigiceps</i>	13	●	
15			キマユムシクイ	<i>Phylloscopus inornatus</i>	10		●
16			メボソムシクイ	<i>Phylloscopus borealis</i>	13		●
17			ムジセッカ	<i>Phylloscopus fuscatus</i>	12		●
18			クイタダキ	<i>Regulus regulus</i>	10		●
19			セッカ	<i>Cisticola juncidis</i>	12	●	
20			リュウキュウキビタキ	<i>Fi cedula narcissina owstoni</i>	14		●
21			エゾビタキ	<i>Muscicapa griseisticta</i>	15	●	●
22			リュウキュウサンコウチョウ	<i>Terpsiphone atrocaudata illex</i>	17		●
23			シジュウカラ		アマミヤマガラ	<i>Parus varius amamii</i>	14
24	オキナワシジュウカラ	<i>Parus major okinawae</i>			15		●
25	メジロ		リュウキュウメジロ	<i>Zosterops japonicus loochooensis</i>	12		●
26	ホオジロ		ミヤマホオジロ	<i>Emberiza elegans</i>	16	●	●
27			アオジ	<i>Emberiza spodocephala</i>	16	●	●
28			クロジ	<i>Emberiza variabilis</i>	17	●	●
29	アトリ		アトリ	<i>Fringilla montifringilla</i>	16	●	●
30			マヒワ	<i>Cauduelis spinus</i>	12		●
31	カエデチョウ		アミハラ(シマキンバラ)	<i>Lonchura punctulata</i>	11	●	
32	ハタオリドリ		スズメ	<i>Passer montanus</i>	14	●	
33	ムクドリ		コムクドリ	<i>Sturnus philippensis</i>	19	●	●
計	3目	14科	33種		—	20種	22種

注) 平成 19 年度(既存資料)及び平成 20 年度の「6. 17 陸域動物」で確認された種から、スズメ大もしくはそれより小さい(全長 20~10cm)種を選定しました。全長及び生息環境は「沖縄野鳥研究会(2010). 改訂版 沖縄の野鳥」を参考としました。

資料: 「シュワブ(H18)環境現況調査(その4)報告書」平成 20 年 10 月、沖縄防衛局



- ・御向島(ウンケー島)
アジサシ類営巣有(少)
- ・辺野古漁港沖の岩礁
アジサシ類営巣有(少)

(H19. 8 月撮影)



- ・長島
アジサシ類営巣有
(10 巣前後)
- ・平島
アジサシ類営巣有(少)
- ・平島の南東側の岩礁
アジサシ類営巣(少)
- ・辺野古漁港沖の岩礁
アジサシ類営巣有(少)

(H20. 4 撮影)



- ・安部オール島
アジサシ類営巣無し
- ・安部崎西側の岩礁
アジサシ類営巣有(少)

(H19. 10 撮影)

図-6. 19. 2. 2. 2. 1 アジサシ類の主な生息及び繁殖場の状況

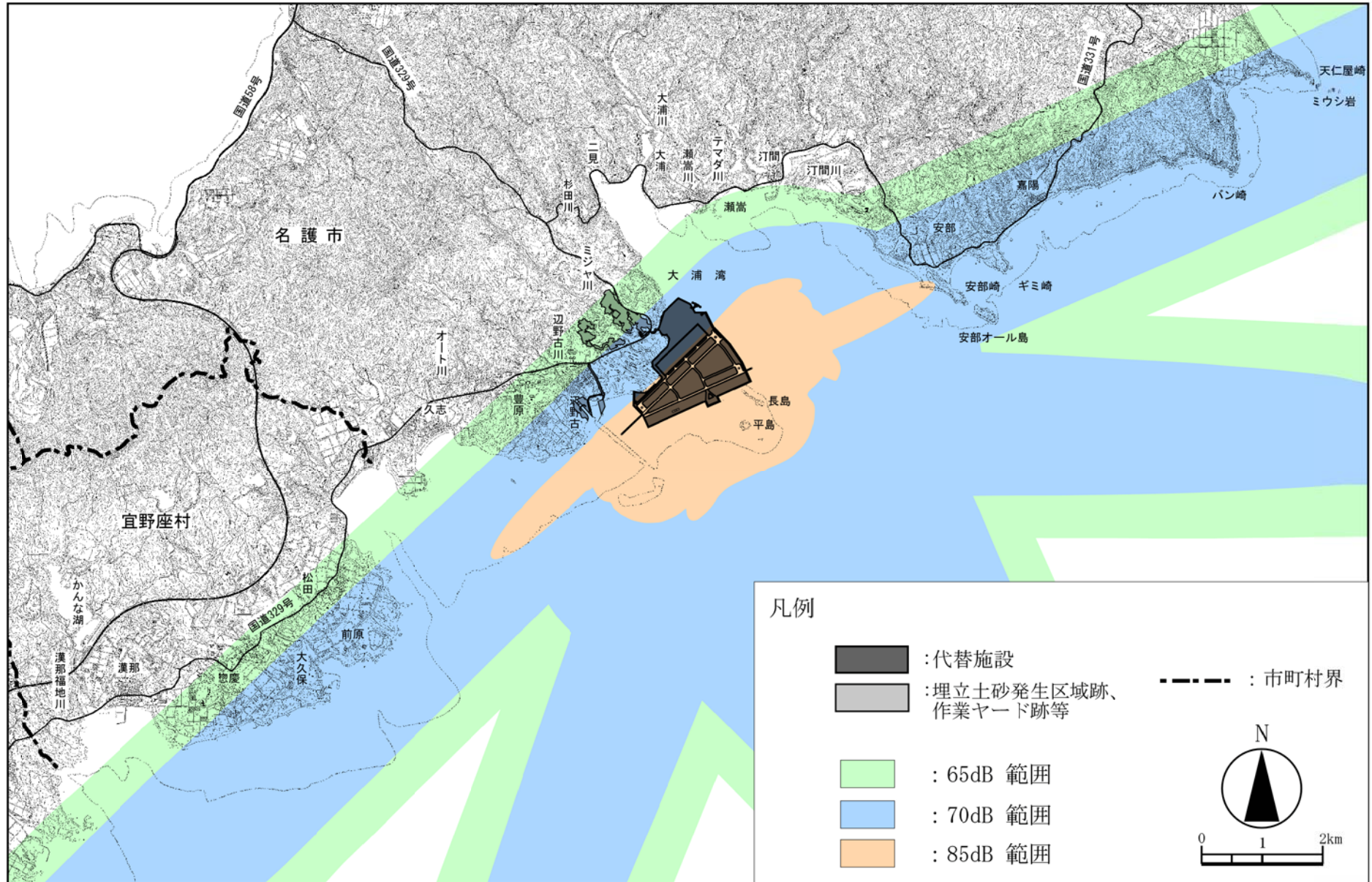


図-6.19.2.2.2.2 ピーク騒音レベルの範囲(回転翼機及び固定翼機)